

【センター演習 評論文】

■全 4 回 要予習

■部分的受講可。ただし第一回は受講してください。一回目が受講不可の場合は、必ず事前に申し出てください。別途、対処を考えます。

■直前対策として、問題文の読み方と選択肢の検討の仕方を確認。4 回で基本的な方法論を定着させる。

この時期に、読解をそのものの力を大幅にアップすることは難しいので、基本的に現状の読解力をベースにしながら、読み方と問題へのアプローチを変えることで正解にたどり着くための方法をつかみ取ってもらうことに主眼を置きます。4 回で一定の定着を図りますが、その後、センターに向けて磨きをかけるために必ず演習を継続してください。身に着けた技術以外に本番で頼りにできるものではありません。

ポイントは、

- ① 課題文の読み方（読む順番、着眼点、意味段落）
- ② 傍線部へのアプローチ（検討すべきポイントの明確化、その方法）
- ③ 選択肢の検討（検討すべきポイントの明確化）

【センター演習 小説】

■全 4 回 要予習

■部分的受講可。ただし第一回は受講してください。一回目が受講不可の場合は、必ず事前に申し出てください。別途、対処を考えます。

■直前対策として、問題文の読み方と選択肢の検討の仕方を確認。4 回で基本的な方法論を定着させる。

基本的な趣旨は評論文の演習と同じです。しかし小説については、「ほとんどそれらしい勉強をしていない」という生徒が大半を占めているように思います。ここで着眼点のある程度整理し、できるだけ首尾一貫した方法で問題にアプローチできるようになることを目指します。

ポイントとしては、

- ① 小説固有の問題文の読解上の留意点
- ② 設問と傍線部の検討のポイント
- ③ 選択肢も検討とそのポイント

【センター演習 数ⅠA、ⅡB】

■数ⅠA、ⅡBともに全 4 回 要予習

■■部分的受講可。ただし第一回は受講してください。一回目が受講不可の場合は、必ず事前に申し出てください。別途、対処を考えます。

■センター試験に向けて基本的な準備は一応、終了していることを前提にしています。(基本公式などを忘れているというのは想定していません。それは直前対策で対応できる範囲のことではありません。)

しかし、センター試験は、問題へのアプローチの仕方、情報処理の方法などを煮詰めることでかなり点数が変わってきます。(力以上の点数が出るようになる、という趣旨ではありません)

センター数学は、実際の数学の力と点数との間に一定のギャップが生まれるケースが多々あります。「時間があつたら」「本当だったら」解けていたと思う場合は少なくありません。

それはもしやセンターパックでは許されます。しかし本番でその「もし」は無意味です。解けるべきものを必ず解ききる。そのために必要なことを明確にさせ、演習を通じてつかみ取って行ってもらいます。

ポイントは

① 問題全体の把握

② 情報処理

です。

【方程式の基礎と発展】(1、2 年生むけ)

■全 4 回

■基本的に 4 回通しての受講が望ましい。

■方程式を侮ってはいけない。その基本とそれがどこまで発展していくのか。それをつかみ取り、今後の勉強の出発点にしてもらうための内容です。

1 回目と 2 回目以降の間に若干、時間をとっていますが、1 回目に方程式をめぐってどのような問題群があるのか、ある程度、その全体像と方法をレクチャーします。それを踏まえて 2 回目以降の課題を予習してきてもらう形をとります。

数式には等式と不等式があり、等式には恒等式と方程式があります。いずれにしても、数学はその大半が図形的なものか数式的なものに分かれます。なかでも数式の取り扱いは、数学の問題の大半を占めます。その数式の扱いの厳密さと自由さは、そのまま数学的論理の緻密さと緻密さに立った自由さに直結します。

なかでも方程式を解くということの奥行きは非常に深いものがあります。

その全体像のイメージをつかんでくれたら、と思います。

【現代文読解の基礎】

■全 4 回

■要予習 部分的な受講は可能ですが、できるだけ 4 回通しての受講が望ましい。

■現代文の読解力が取りざたされますが、いったいその読解力とはなんだろう？ 正体不明である場合が多いように思います。しかしその正体不明の力をつけることなどできません。

今回は、読解力とはどういうものか、どういう力が要求されているのか、ということをおある程度明らかにしながら、実際の演習を通して「読む」ということの基本的なあり方と方法をつかんでもらうことを目的にします。

ポイントとしては…

- ① そもそも読解力とはどういう力なのか
- ② 主張があるからこそ、文章は書かれる。→主張をつかむ。主題をつかむ。
- ③ 読み手を納得させるために、筆者は、主張をできるだけはっきりさせ、その理由を述べます。そのために、＜同一性＞＜対比＞＜根拠と主張＞の大別して三つの糸を張り巡らせています。読解とは基本的にこの糸を丹念にたどることです。

それを実際にやってみようというのが今回の授業の眼目です。